

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300247		
法人名	有限会社 カワトマイル		
事業所名	グループホーム よこせ	ユニット名	
所在地	〒851-3509 長崎県西海市西海町横瀬郷2762-2		
自己評価作成日	平成25年11月6日	評価結果市町村受理日	平成26年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年12月13日	評価確定日	平成26年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この西海、横瀬の地で遠くには海も見え、周りは緑に囲まれ、敷地内には畑もある自然豊かに、あふれるその環境の中に、ホームがあります。その中で入居者様、中心とした家庭的に楽しく生活して頂けますように、基本理念と共に職員理念を大切に胸に刻み、ケアをさせて頂いております。それに地域の方々に温かく見守られながら、地域行事やイベントに参加することで、入居者様が生き生きと過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームよこせ”の取り組みは着実に地域に溶け込み、ホームを大切に思っ下さる方々(支援者)が増えている。保育所の子供達もホームの畑で芋掘りなどを楽しまれ、掘ったお芋は地元の電気屋の方が芋焼き機でホクホクに焼いて下さり、ご利用者も嬉しそうに食べられている。新鮮な野菜で作られた食事美味しく、ちまき作りや梅の砂糖漬けなども一緒にされており、ご利用者から押し寿司や味噌めたく等の作り方を教えて頂く場面も多い。食事を食べる事を忘れていた方にも、脳が「美味しい」と言う事を思い出して頂けるように、毎食、職員が横に座り、“食べる”行動に繋がるように優しい声かけを続けている。ドライブや買い物などの生活風景は写真に撮られ、ご利用者が行き来している廊下に貼られている。お部屋に帰る時に、一生懸命に写真を見られているご利用者の姿も日常で、家族などの来訪者も写真を楽しまれている。管理者を中心に、職員のチームワークも更に良くなっており、ケアマネの方や介護主任のサポートも日々頂きながら、ご本人本位の生活支援が続けられている。今後も地域の方との交流を増やし、地域の“わいわいサロン”をホームで開催できればと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々折々の理念の唱和、担当者会議におけるプラン説明の折、理念と職員の心得を確認し援助につなぐことの大切さを共有しているところです。	ご利用者から「ありがとう」と言われる事が多い。その感謝の言葉が、周りの方に心地良い波紋ができる事を改めて学ぶ機会になり、職員個々の言葉の振り返りに繋げている。日頃も、「理念」と「職員の心得」を通して、初心を忘れずケアを行うよう、管理者と介護主任が随時職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住宅地に立地していることもあり、朝夕の元気の良い挨拶にはじまり、お顔をつきあわせての利用者様の状況共有があります。「昨日の救急車は?」「あの方は元気しとと?」「あの職員は見らんばってん、元気かとね。」など等。	町内清掃や地域行事(運動会、敬老会、夏祭りなど)に参加し、地域の方との交流を続けている。保育所の子供達がホームの芋掘りに来られたり、芋掘りの応援に地域の方「7人の侍」が来て下さっている。年1回の総会にも参加し、在宅介護のパンフレットを持参し、ホームの説明と共に、相談できる場所である事も説明させて頂いた。	子供110番の立て看板を近所の方が作成して下さい、設置する事ができた。小学生がホームのトイレを借りる姿も見られており、小学校の校長先生も児童の見守りのお願いで来て下さった。今後は、小学生の体験学習の受け入れなども検討していきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年度当初の地区総会の席上で、グループホームの特性について説明その折在宅介護冊子を配布して簡単に説明します。同時に相談を24時間受けていることも説明し、地域の方に気兼ねない施設利用を啓蒙しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の生活の質向上のため、庭先会議を日頃より随時行う事を含め左記会議での結果を含め地区内行事に参加し認知症介護について啓蒙活動を行っています。	“井戸端会議”と称し、土に触れながら、地域代表の方々と地域連携の在り方や苗の情報交換をしている。内容に応じて、警官や薬剤師、消防団長、保育所園長等も参加して下さい、「中の様子がわかって良かった」と言う言葉を頂いている。今後も、認知症サポーターの方や地域の方(7人の侍)にも、お声かけする予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターへの相談を行い、地域への啓蒙活動を行っています。	管理者は西海市福祉施設連絡協議会の利用者支援部会の部会長として協力させて頂いている。25年度から入居情報を市に報告するようになり、直接、市の担当者とお会いする機会が増えている。処遇改善加算などの相談時にも、適宜アドバイスを下さり、地域包括の方と認知症サポーター養成研修会を開催する事もできた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束を行わない介護実践」を目標としています。沿い行った事例が発生すると直ちに現場会議を行い、管理者へ報告し対策を講じるようにしています。拘束事例はありません。	「身体拘束は絶対にしない」という方針の基、ホーム内研修も行われている。不穏行動の背景(原因)を見つめ、その原因解決に向けた取り組みを続けており、幻聴の内容によっては、駐在所の方の協力を得る事もでき、ご本人が安心できる環境を作り続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修で積極的に学び、マスコミの報道事例を参考に検討する等。職員会議で研修を行っています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネの過去の実践事例、外部研修をもとに報告を聞き、学ぶとともに対象者がいれば支援を行う事になると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に時間かけ、わかりやすく説明を行っています。また退所時相談、在宅生活にあっても相談を受けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会の機会があるのでそこで意見を出してもらっています。	25年度から家族との担当者会議が始められ、ゆっくり家族の方の思いや要望を伺う機会が増えている。2～3月に1回、管理者が手紙で日頃の状況を報告し、ホーム便り(毎月)の郵送も続けており、家族会も年2回行われ、家族同士の交流が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その日の出来事を互いに連絡を日々とりあって利用者の状態、スタッフの勤務状況を把握し非常時の対応に備えています。	社長、施設長も参加し、お菓子も準備した会議が行われている。施設長等のお人柄もあり、和気あいあいとした会議になっている。職員からの要望も多く、職員の意見は引き継ぎノートに残し、共有している。職員が相談しやすいように、日勤帯にリーダーを決めるシステムを導入し、更に情報交換ができるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の状態把握と職員の対応能力、休憩時間はきちんと取るように、研修、資格取得については大いに推奨する等、希望休を取り入れるなどしてやりがいある職場の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのための研修への理解をしめされ、又生活上、職場における悩みを受け止めご本人の将来に役に立つ方法を第1にと常に真摯に対応されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者双方が、ことあるたびに連絡を取り合い訪問活動、研修、利用者同士の交流事業などを恒例的に行っています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に、入所時は基本情報を聞き取る以外にご本人、保護者の方との情報収集、生活状況・生活歴を聞き取るなどして、生活に支障のないための配慮を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に体調不良時を含め、定期的なかかりつけ医の受診、家族会への参加、ご本人の生活上の要望などでご家族(保護者)が負担となる場合は施設側が積極的に対応する等して、より良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込時、ホームの役割、ご家族の役割について双方の要望などのすり合わせを行い、内外のサービスの利用を取り入れる事で支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とスタッフが出逢えた事の喜びとこれからの暮らしが楽しくあるように、正面から向き合い互いに感謝できる生活を送るためにはどうしたらよいか、常にお話ししながら生活上のお手伝いに参加して頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活を支援していく事は、施設の役割とご家族の役割が果たされて初めて豊かな生活に近づける事を共有しているところです。しかしながら、昨近の社会情勢ではご本人、ご家族の意に反し交流が困難なように思えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全スタッフがグループホームよこせ設立者の理念を胸にしっかり刻み、常に感謝の心で接する「おもてなし」を気がけて対応して行きます。	日頃の会話の中で馴染みの関係を把握している。地域行事や近所の商店街に出かけ、地域の方との会話を楽しんでいる。知人の方が遠方から来て下さったり、ご本人の要望でもあった“自宅でお茶会”を実現する事もできた。家族の方が同行し、葬儀や49日の法事に参列する事ができた方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「私は他人にお世話になるようになったら、退所するとよ。」と言われる自立心の強い方。段々と生活(ADL)が低下。見ると、トイレに行かれズボンを利用者がスツとトイレに入りその方のズボンを上げている。後で職員「ありがとう」の声かけ		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1例は退所後も自立した生活支援継続し相互訪問継続4年間。1例は退所後の在宅生活状況を確認していたが、疾病により入院し退院後再入所されています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活で困っていることはないか職員は日頃から気がかけています。また要望に傾聴し必要であればご家族様のご意見をもすり合わせ検討しています。	センター方式を活用している。団欒時や夜間、利用者同志の会話の内容も伺いながら、ご本人の思いに寄り添っている。盆栽への想いや、船に乗りたい、水やりをしたいなどの要望を引き出し、計画に反映するようにしている。“生活日誌”には個々の計画内容も印字し、計画内容の確認が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り、継続できるように環境を整えています。馴染みの生活用品を自室にそろえるなどしています。さらにはご家族様にも協力して頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	潜在的な能力と現在の過ごし方に留意しつつ、ご本人のくつろげる場所、気の合う他利用者との関係を確認しながら援助を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状をより深く理解して頂くためスタッフのみでなくご家族(ご本人)もチームに参加しての、プラン作成に関する会議にし、チーム成員一人一人が問題課題を共有してことにあたりたい。	ご本人の意向を大切にしている。家族や主治医にも意見を頂き、全職員が介護計画の作成に関わっている。ご本人のセルフも計画(ニーズ欄)に盛り込み、個々の生活歴や要望を大切にしたい計画を作成している。家族と自宅近くの観音様の清掃をしている方もおられ、計画にも盛り込まれており、24時間シート(3表)も作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録一枚一枚に具体的な援助方法をいくつか項目別に掲げ、日常の変化に対応しプラン変更の事案発生に日々留意しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族へはご本人が関わってきた不特定多数の方々の面談を推奨し、職員へは来訪者の方が面談しやすいもてなしに配慮するように日ごろから、介護主任がお願いしています。また地域行事へは進んで地域住民の一員として参加しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恵まれた地域環境、これまでの変動の時代にあつて艱難辛苦を乗り越え生きて来られた利用者様の暮らしの課題ヒントが地域資源環境の中にあると思います。地域との関係を密にケア実践中です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	前回受診から今回受診時までの暮らしぶりについての報告を行っています。	希望する医療機関に受診されており、症状の変化や内服に関する相談等を含め、医師とは適宜意見交換が行えている。受診時は主に職員が同行し、家族とも受診結果の共有ができています。職員の観察力も高まり、ホームに勤務する准看護師にも相談でき、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の方はいないのですが、不具合な方の対応について、看護師の資格保持職員に参考意見を聞くことはあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携窓口職員、医療ソーシャルワーカーとの連携を大切にしています。生活動作の援助のポイントを入院時に情報として担当看護師に口頭で主に伝えています。入退院時の日程調整も入院先の看護師と行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	原則として行わないので、わずかな事例しかないが、最後は、病院で亡くなる方がほとんどです。ご家族と話し合い、病院の医師の指示を受け、死亡前1週間ぐらいの状態報告を行い救急車にて入院して頂くことが事例としてあります。	ご利用者の体調を観察し、健康管理が行われている。現在、重度化した場合の支援は原則できない状況にあるが、希望に応じて、担当医師と家族等と相談し、最大限、ホームでの生活が継続できるよう努めている。25年8月に終末期ケアが行われ、転院ぎりぎりまで精神誠意の対応をさせて頂いた。緊急時は川棚神経医療センターとの医療連携が行われ、医師も親身にアドバイスを下さっている。	「終末期の対応について延命処置は行わない」などの要望を伺っている方もおられる。今後も引き続き、ご本人の想いを把握する姿勢を職員が持てるように、“死生観”に関する研修を行ったり、ご利用者同士の日向ぼっここの時などに、ご利用者とゆっくりお話を伺う機会を作る予定である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルをもとに実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	広域消防署員、地元自衛消防団、近所の方々、職員の協力を得て、訓練も年2回は確実にしています。	25年3月、長崎のホーム火災の後、消防署の方がホーム内部の確認をして下さった。スプリンクラーも設置しており、毎日の防災チェックも続けている。毎年11月9日(防災の日)に消防団や地域の方と夜間(19時)に訓練が行われ、夜間照明もある事からスムーズに訓練ができています。災害に備え、水や缶詰等の備蓄をしている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用様の人格人権を真摯に尊重し、ケアや言葉かけを行えるように、常に申し送りの時の理念の唱和や職員同士でおかしな言葉かけやケアについてはその都度、気をつけて注意し合っています。	ご利用者の尊厳を大切に、ご本人の立場でケアが行われ、反省する素直な心を持てるように努めている。言葉遣いに注意し、子ども扱いした言葉を使わないよう介護主任が指導している。“トイレは神聖な場所”と言う事を共有し、羞恥心への配慮も続けている。入職時に守秘義務の説明を行い、情報管理にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っていますしかしながら対応できない事もあり、ご家族に相談している事例もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状態により、スケジュールを変更することがありますが、今後は希望を聞きながらその日の暮らしを決めることに勤めて行きます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生会、敬老会など機会を見てお化粧などして喜ばれている様子があり今後も行っていききたいと思います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの、嫌いなもの、アレルギーの要因になるものを把握して食事の提供、調理の下ごしらえをにぎやかにして食事を美味しく摂られるように努めています。	ご利用者と買い物に行き、刺身などを選んで下さり、管理栄養士や職員がバランスに配慮して調理をしている。ご利用者も“ごぼうそぎ”などをして下さり、つわの皮むきや餃子の具材を皮に包んだり、餅丸めなどもワイワイ楽しみながら手伝って下さっている。煮しめや押し寿司、味噌ぬた等を、ご利用者から教えて頂く場面も多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の資格をもった職員に食事制限のある方は参考意見をとり提供しています。水分の量は特に気がけてスタッフ間で把握し確保しています。最終的には定期受診時に栄養状態を確認。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨き、義歯洗い、口腔内の状態確認を特にご自分でできない方はスタッフが援助しながら清潔維持に努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	まだまだ、スタッフ間での排泄の自立支援について、意識が低いと思いますので、今後内部研修を行い意識をみんなで高めていきたいと思っています。	排泄チェック表をつけている。排泄感覚やご利用者のしぐさを感じ取り、個別のトイレ誘導を行っており、寝具や衣類の失禁による交換回数が減っている。ご本人の希望でオムツを利用している方も、適宜オムツ交換を行っている。	トイレ誘導が困難な方はオムツでの対応になっている。今後も引き続き、ご本人が少しでも不快な思いをされないよう、解決策の検討を続けていくと共に、パッド交換やオムツ交換の方法など、ホーム長が講師になり、研修を行う予定にしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給を行い、時よりバナナジュースを提供し、便意へのアプローチを図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の状況を把握し、言葉かけで入浴のタイミングを図りつつ、気持ちよく入浴して頂いております。	入浴時間などの意向を大切にしている。拒否が見られる時は声かけを工夫し、気持ち良く入浴して頂いている。体調に応じて2人介助を行い、前身にはタオルをかける等、羞恥心の配慮もしている。菖蒲湯やゆず湯なども楽しまれ、入浴時は歌が聞かれている。今後は、いつでも入浴できるように、入浴体制を検討していく予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態や訴えなどをとらえ、言葉かけで休んで頂く事がありますが、寝付きにく方に関しては、スタッフが側で安心して休んで頂けるようにサポート致します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	運営推進会議のメンバーでもある薬剤師の処方薬の副作用なども注意しながら、説明書を見聞しながら、又医師の指示をもとに症状の変化に留意支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、裁縫、畑仕事、魚釣り、買い物、カラオケなど定期的ではないができる範囲で行い参加してもらっています。できないときはご家族の支援をお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	機会ある限り、行っています。ご家族にも幾度となくお願いしているところです。	近くの公園や畑などは自由に外出して頂いており、車椅子の方もホームの庭先やテラス、駐車場での日光浴等をされている。お花見やダム公園、海浜公園、大島大橋公園などのドライブと共に、ジャスコでの買い物も楽しまれた。砂糖や味噌等の買い出しにもご利用者と行かれたり、家族と一緒に自宅で夕食を食べて来られる方もおられる。通院介助の時にも、他のご利用者も同行し、外出する機会を増やしている。	外出を喜ばれる方も多く、今後も引き続き、家族の協力を頂く中で楽しい思い出を作っていく予定にしている。また社会福祉協議会とのネットワークを活用し、外出ボランティアやガイドヘルパーの導入も視野に入れ、外出を増やしていく方法の検討を続けていく予定にしている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーに出かけ、必要な物の買い物支援をご家族の同意をえて援助を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃の活動として実践しています。手紙のやり取りは行っていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を花瓶にさして玄関口、あるいはリビングに配置	玄関には地域の方が手作りして下さった26年度の干支“馬の置き物”が飾られている。3月には“ひな人形”も飾られ、季節を感じる事ができている。リビングには対面式キッチンがあり、25年度には高さ調節ができるテーブルも購入された。トイレの増設も検討中で、トイレの床のタイルで滑らないように見守りも続けている。ご利用者も朝からモップ拭きをして下さり、隅々の掃除が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外庭と外庭の長椅子、廊下、玄関口前のソファ、自室などでくつろいでおられる様子がみられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室で過ごされている時間帯に雑然となっている時がままあるので、対室時にそれとなく整理させて頂く事があります。	畳とフローリングのお部屋があり、タンスやテレビと共に、大切な仏壇や家族の写真も置かれている。体調に応じて、自宅のベッドやレンタルのベッドを利用されている方もおられ、家具の配置などをご自分でレイアウトされている。できる範囲の掃除もして下さり、モップの布を毛糸で編んで下さる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの認識ができるようにポスター掲示、入口の廊下に表示を設けています。便器、洗面台の両サイドに手すりを設置。個別に部屋がわかるようにご自分の名前がわかるようにしています。廊下の左右に手すりが設置。		